

オンライン授業による音楽演習の実践報告

Practical report of Music Exercises by Online Classes

次世代教育学部こども発達学科

高崎 展好

TAKASAKI, Nobuyoshi

Department of Child Development

Faculty of Education for Future Generations

要旨 (Abstract) : オンライン授業による音楽演習の実践報告並びに学習成果を考察し、対面授業と同等の学習成果を上げることが可能かを検証する。本科目は、ピアノ学習へ接続するための音楽基礎知識、音楽理論、ソルフェージュ、歌唱指導を実施し、ピアノ演奏に必要な読譜力の習得を目標とする。毎授業終了後に、授業理解度調査を実施。その調査結果を基に、授業内容、方法、スライド資料、指導法、授業スキルの向上を目的とする。また、本研究結果からICTを活用した授業形態の確立を目指す。

キーワード : オンライン授業、音楽理論、読譜力、リズム学習、双方向授業

Keywords : Online lessons, Music theory, Reading ability, Interactive lessons

はじめに

保育士養成課程において、ピアノ弾き歌い技能の習得は不可欠である。なぜならば、保育士資格、幼稚園教諭免許取得において、保育教育実習をはじめ、保育士採用試験等でピアノ演奏または、ピアノの弾き歌い技能レベルを実技試験に課す自治体が大半である。しかし、現在、保育教育者を志望し、入学する学生においては、ピアノ学習未経験もしくは、幼少期に音楽教室で習った経験がある程度の学生が大半である。入学前に保育士採用試験に必要な演奏技能を身に付けている学生は皆無といっても過言ではない。短大もしくは4年制大学の限られた学習時間において、ピアノ技能を習得し、採用試験を突破するためには、相応の練習時間の確保と習得に向けたカリキュラムが必要である。

個人差はあるが、ピアノ学習はマンツーマンによる指導で相応に時間を費やせば、実技レベルは向上する。しかし、限られたピアノ学習時間において、ピアノ実技指導だけでは、弾き歌いに必要な歌唱力、音楽性、表現力、演奏技術の向上は図れない。音楽基礎知識や音楽理論、読譜力の習得は必要不可欠である。

2020年度、コロナ禍の影響により、高等教育機関においても、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、音楽等の実技、演習を伴う科目の実施は、困難で

あると考えられた。

オンライン授業の実施に向けて、授業準備、実施方法に創意工夫、試行錯誤を重ね、オンライン授業の実施に至った。

読譜力習得のための音楽演習は、本来、指導者と受講者が対面授業により、受講者の実技演習、視唱をその都度、確認を行いながら指導を行わなければ、学習の進捗状況の把握はもとより、効果や成果が期待できない。歌唱を伴う実技指導については、音楽理論学習と並行して、対面指導を行わなければ正しい発声、歌唱力、表現力を養うことは困難である。

全国の複数の学校において、合唱指導が原因とみられるクラスターが相次いで報告され、文部科学省は、コロナ禍における歌唱、合唱時による感染症対策マニュアルの徹底が通知された。

加藤 (2020) は、合唱活動における飛沫感染について、通常のマスク（不織布、布、ポリエステルのも）は可視化される飛沫が顕著に減少することを明らかにしたが、密室、密閉空間と考えられる環境での練習はすべきでないと述べている。

コロナ禍において、実技指導を伴う科目であっても、クラスターや感染の可能性が少しでも考えられる場合、そのリスクを回避するため、オンライン授業の実施はやむを得ない。

このオンライン授業における課題は、対面授業と同

等のシラバスに掲載している学習内容を目標とし、音楽基礎知識、音楽理論、ソルフェージュ、ピアノ学習へ接続するための必要な読譜力の習得及び、歌唱指導である。

オンラインによる授業形態において、音楽の学習に不安を抱く学生が安心して学習し、演習を通して読譜力を習得することが可能であるか、毎授業後に授業理解度調査フォームを実施し、その調査結果を基に、指導案の改善、実施方法及び授業精度の向上を目的とする。また、本研究結果からICTを活用した授業形態の確立を目指す。

I. 目的

本研究は、オンライン授業による音楽演習の実践報告並びに成果を考察し、対面授業と同等の学習内容、学習成果を得ることができるかを検証する。

前述のピアノ学習に必要な音楽基礎知識、音楽理論、ソルフェージュ、歌唱指導を実際にオンライン授業で実施し、ピアノ学習に必要な読譜力の習得を目標とする。また、事前課題内容、事後課題内容についても学習内容の定着、学習成果を計れるものにするため、毎時間終了時に授業理解度調査フォームを実施し、結果を基に、学習進捗状況の把握、指導内容、指導方法の改善、授業精度を向上させることが目的である。

今後は、オンライン、対面授業に関わりなく、ICTを活用した授業形態の確立を目指すことが課題である。

II. 方法

期 間：2020年5月13日～7月29日

時 間：週1コマ×12回（各100分）

環 境：Google Classroom及びGoogle Meet

形 態：Google Meet接続による60分授業

対 象：K大学K学科82名

科 目：音楽の理解

クラス：学籍番号前半40名、後半42名

教 材：坪野春枝著「最もわかりやすい楽典入門」

その他、スライド資料、楽譜等

シラバス概要と授業計画について

1. 科目概要

音楽の基礎理論（ルール）を学ぶ。演習を通して、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を習得する。また、歌唱に必要な基本姿勢から柔軟体操を実施し、自然で正しい発声法を習得する。

この授業では、保育教育者養成のピアノ学習に必要な読譜の知識、ソルフェージュを学ぶと共に、和音（コード）についての知識を学び、ピアノ演奏に必要な知識を習得する。

2. 教育目標

楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽知識を身に付ける。歌唱に必要な基本的発声、読譜力、表現力を身に付け、歌唱演習を通して音楽を楽しむことを体験する。ピアノ演奏に必要な和音（コード）の学習を行い、簡単な伴奏法の習得を目指す。また基礎的な楽譜の読み書きとソルフェージュの演習を行い視唱力を身に付ける。コードネームを用いて簡単な伴奏付けの習得を目指す。

3. 授業計画

回	日程	講義内容	演習内容
1	5/13	ガイダンス	歌唱指導
2	5/20	譜表、	歌唱指導、ソルフェージュ
3	5/27	音符と休符	リズム学習Ⅰ
4	6/3	音符と休符、音名	リズム学習Ⅱ
5	6/10	拍子	歌唱指導、ソルフェージュ
6	6/17	様々な音楽記号	歌唱指導、ソルフェージュ
7	6/24	幹音の音程	歌唱指導、ソルフェージュ
8	7/1	派生音の音程Ⅰ	歌唱指導、ソルフェージュ
9	7/8	音階と調	歌唱指導、ソルフェージュ
10	7/15		歌唱指導、ソルフェージュ
11	7/22	和音とコードネーム	
12	7/29	まとめ・確認テスト	
13		課題研究	歌唱動画作品制作
14		課題研究	歌唱動画作品制作

4. 授業内容

①号令・出欠確認：一人ずつ氏名を呼名（10分）

②事前課題解説：スライド、ピアノ使用（20分）

③演習：本時課題、スライド、フォーム（20分）

※ソルフェージュ、歌唱指導

④理解度調査実施（5分）

⑤事後課題、次回事前課題解説（5分）

5. スライド資料

オンライン授業において、スライド資料の作成に最も時間と労力を要した。これまでの対面授業においても、音楽基礎知識、理論学習のためのスライド資料を作成してきたが、これまで以上に、詳細な解説の追加、スライドアニメーションの多用により、スライド資料のみでも事前学習が可能なものを作成した。これにより授業理解度調査のスライドの評価は非常に高いものとなった。

作成スライド資料に関しては、ClassroomでPDFとして共有し、事前課題、事後課題の学習が捗るよう配慮することで課題提出率が毎回90%以上となった。スライドには、図、イラスト、フォントサイズ、配色等に配慮。見やすさを最優先とし、スライドアニメーションで吹き出しを多く取り入れることで学習ポイントがスライドのみでも理解できるよう工夫を施した。

オンライン授業で使用するスライドには、双方向を重視し、別途、チャットクイズ、フォーム小テスト、歌唱、ピアノによる生演奏等を随所に施し、オンラインの特性を生かしたマンツーマン指導のような聴覚、視覚情報をふんだんに盛り込み、オンライン授業でも飽きさせないよう工夫を試みた。

Ⅲ. 授業理解度調査結果と考察

第3回授業から第11回まで毎時間終了後に授業理解度調査フォームを実施。

第3回（5/27）リズム学習Ⅰ：回答率89%

Q1：学習内容を理解できましたか

とても理解できた52.1%，理解できた37%，少し理解できた5.5%，少し難しい5.5%，難しい0%

Q2：リズムを読むことはできましたか

間違えずに読むことができた52.1%，少し間違えたができた43.8%，できなかった4.1%

Q3：リズムを手で打つことはできましたか

間違えずにできた52.1%，少し間違えたができた43.8%，できなかった4.1%

Q4：リズムを声に出して読みながら、手で打つことはできましたか

間違えずにできた53.4%，少し間違えたができた43.8%，できなかった2.7%

この結果から、89.1%が理解することができたと回答、Q2リズムを読むことができた95.9%，Q3リズ

ムを手で打つことができた95.9%よりも、Q4リズムを声に出しながら手で打つことができた97.2%と若干ではあるが声に出しながら手で打つことができたと回答した学生が増加していることがわかる。この結果から、オンライン授業においてもパソコンの前でしっかりと声を出し、リズム打ちをしていることがわかる。受講者側のウェブ・カメラをオンにしなければ教員側から全員の演習の様子は確認できないが、読譜力を身につけるために授業に積極的に参加していることがわかる。

Q5本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、楽しい、分かりやすい、もっと勉強したい、苦手だが頑張りたい、音楽基礎知識はないが声を出しながらの手でリズムを打つことができた、これまでの学習方法と異なり、教え方がわかりやすくて感動した等、建設的な意見が多く回答された。

しかし、授業内容について、少し難しかった5.5%，リズム打ちができなかった2.7%をどのようにフォローを行うか、また授業スライド資料がより完成度の高いものになるよう再構築することも考えなければならない。

第4回（6/3）リズム学習Ⅱ：回答率100%

リズム学習Ⅱについては、前時学習内容と比較し、徐々に難度は上がるが、アンケート回答率は向上し、第3回学習結果よりも全体の習得率が向上した。

Q1：学習内容を理解できた96.5%

Q2：リズムを読むことができた97.7%

Q3：リズムを手で打つことができた97.7%

Q4：リズムを声に出して読みながら手で打つことができた100%

学習内容の難度が上がっているが、リズム学習の習得率が向上した要因としては、授業スライド資料をはじめ、事前課題学習、事後課題学習の定着、スライド資料の見直しによる自学自習に効果があったのではないかと考えることができる。

Q5授業内容についての自由記述において、事前課題、事後課題への添削コメントが学習に役立っている、オンライン授業の中で先生がたくさん褒めてくれるのでやる気が湧く、楽譜は声に出して読むと間違えずに読めることがわかった、この授業に参加すると元気が出る、対面で授業を受けたい、ピアノができなくて音楽が嫌いだったが楽しく学べて好きになった、パソコンの前で声を出しながら手を打つのは慣れないが頑張りたい等、同様の多くの回答結果から、オンライ

ン授業においても実技、演習にしっかり取り組んでいることがわかる。

第5回（6/10）拍と拍子：回答率98.7%

Q 1：拍・拍子について理解できましたか

理解できた88.9%，少し難しい7.4%，難しかった3.7%

Q 2：楽譜の拍子が理解できるようになりましたか？

理解できる97.5%，理解できない2.5%

Q 3：授業スライド資料について（複数回答可）

分かりやすい90.1%，自己学習に役立っている56.8%，少しわかりにくい1.2%

Q 4：本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、分かりやすい、楽しい、明るい、ピアノで演奏、理解が深まる、スライドが見やすい等の回答の他、少数ではあるが、頑張りたい、難しいという回答も見られ、学習内容が深まるにつれ、補習や個人指導を含めた時間の確保が必要であると感じる。

第6回（6/17）音楽記号：回答率100%

Q 1：学習内容を理解できましたか

理解できた90.3%，少し難しい9.6%，難しかった0%

Q 2：楽譜に記された音楽記号を理解できる

理解できる98.8%，理解できない1.2%

Q 3：授業スライド資料について（複数回答可）

分かりやすい94%，自己学習に役立っている44.6%，少しわかりにくい1.2%

Q 4：本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、分かりやすい、楽しい、明るい、ピアノで演奏、理解が深まる、解説とスライドが分かりやすい、課題が取り組みやすい等の多くの回答、消極的な回答は見られなかった。

第7回（6/24）幹音の音程：回答率100%

Q 1：学習内容を理解できましたか

理解できた89%，少し難しい11%，難しかった0%

Q 2：授業スライド資料について（複数回答可）

分かりやすい85.6%，自己学習に役立っている45.1%，少しわかりにくい1.2%

Q 3：本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、スライドが分かりやすい授

業、練習問題がクイズ形式で楽しい、学習する楽しさがある等の回答が多くみられた。

音程の学習は、音楽理論を学習する上で非常に重要であり、理解することが困難な単元であるが、スライドを活用したオンライン授業により、対面授業でも過去にない非常に高い理解度、正答率に、ICT授業のメリット、展望を実感した。

第8回（7/1）派生音（長短系）の音程：回答率100%

Q 1：学習内容を理解できましたか

理解できた82.6%，少し難しい8.1%，難しかった9.3%

Q 2：授業スライド資料について（複数回答可）

分かりやすい91.9%，自己学習に役立っている48.8%，少しわかりにくい1.2%，わかりにくい1.2%

Q 3：本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、スライドが分かりやすい授業、練習問題がクイズ形式で楽しい、スライド資料が役立つ、学習する楽しさがある、問題解答の解説があり考え方の理解が深まる等の回答が多くみられた。

音程の派生音の単元では、シャープやフラット等の変化記号の理解が必要不可欠であり、これまでの学習成果を測る単元である。少し難しい8.1%，難しい9.3%の受講者の補習支援が必要であると感じる。

第9回（7/8）音階と調：回答率100%

Q 1：学習内容を理解できましたか

理解できた90.7%，少し難しい5.8%，難しかった3.5%

Q 2：授業スライド資料について（複数回答可）

分かりやすい89.6%，自己学習に役立っている54.7%，少しわかりにくい2.3%，わかりにくい1.2%

Q 3：本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、スライドが分かりやすい授業、練習問題がクイズ形式で楽しい、スライド資料が自習に役立つ、実際にピアノを使った解説があり理解が深まる、問題解答の解説があり考え方の理解が深まる等の回答が多くみられた。

第10回（7/15）歌唱指導：回答率100%

Q 1：オンライン歌唱指導について

とても理解できた69%，理解できた25%，少し理解できた6%

Q 2：本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、先生のピアノ伴奏と歌に合わせて歌うことが音楽室で実際に授業に参加しているようで楽しかった、細かく丁寧な指導、PC画面で楽譜を提示されるので楽譜をしっかり読むことができた、個人レッスンを受けている錯覚になった等の回答が多くみられた。

オンライン授業では、全員が音声を出すと送受信にタイムラグが生じるため、こうした実技指導は難しいと考えられていたが、オンラインにおいても、歌唱指導後に歌唱動画の提出をすることで実技指導が可能であることがわかった。ただ、実際に受講者の声に対面授業と同等にリアルタイムで指導できないということもあり、双方向の指導は困難であると感じる。今後のICTの発展、進化を期待する。

第11回（7/22）和音とコードネーム：回答率100%

Q 1：学習内容を理解できましたか

理解できた89.1%，少し難しい9.8%，難しかった1.2%

Q 2：授業スライド資料について（複数回答可）

分かりやすい89%，自己学習に役立っている53.3%

Q 3：本時の内容について質問や感想などを述べる自由記述において、スライドが分かりやすい授業、練習問題がクイズ形式で楽しい、スライド資料が何度も見ることができるので復習に役立つ、学習する楽しさがある、問題解答の解説があり考え方の理解が深まる等の回答が多くみられた。また、期待に応えられるよう頑張りたい、次回が最後の授業なので頑張りたい等、授業への意欲的な回答も多く見られた。

和音とコードネームは、ピアノ学習へ接続する重要な単位であるが、授業理解度89.1%と非常に高い数値となった。後期、対面授業の器楽演習において、音楽基礎知識、和音とコードネームの理解度が高く、個人差はあるものの過去にないピアノの学習進度となっている。

これらの結果から、意欲的で学力、能力が高い学生が増加していることも考えられる。

Ⅳ. 効果と結果

入学時、特に経験のない音楽やピアノ学習に不安を抱く学生が多く、また、音楽基礎力、ピアノ弾き歌いの技能は採用試験、保育実習、保育教育に必要なため、ピアノ学習の導入となる本科目に先入観で苦手意識を抱かせないような工夫、配慮を行った。また、音楽を楽しんで学習できるよう、オンライン授業では、学習内容、目的を明確にし、授業実施方法には意見交換フォームによる回答意見を取り入れ、これまで以上に、分かりやすく、身につく、明るく、楽しい授業づくりをモットーにオンライン授業の展開を行った。

これまでの対面授業では、理論、演習、実技等を交えながら、学生の目の色、顔色、様子を窺いながら、授業の進め方、話すスピード、声のトーン、課題内容等に配慮しながら授業を進めてきたため、オンラインにおいて、学生の参加状況、取り組み姿勢が見えないため、指導法、先行きに非常に不安を抱えていたのは事実である。しかし、毎授業後の授業理解度調査において高い理解度、多くの意見や感想が励みとなり、これまで以上に教材研究に力を注ぐことができ、より良い授業展開ができたと自負している。

オンライン授業の実施に伴い、授業内容、方法、スライド資料、指導法、授業スキルを改め、再構築することができた。これまで当たり前だった対面授業からオンライン授業に替わったことで、これまでの授業方法のあり方について考え、ICTを活用した授業研究、授業展開の価値や重要性に気付かされる良い機会となった。今後は、本実践報告を基に、オンライン授業、対面授業に関わりなく、ICTを活用した授業形態の確立を目指すことが課題である。

引用文献及び参考文献

- 加藤英明（2020）『合唱活動における飛沫実証実験報告書』、全日本合唱連盟・東京都合唱連盟
- ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析
- 坪野春枝（2019）『最もわかりやすい楽典入門【改訂版】』

被験者となる学生より研究に関わるデータ使用掲載許諾済み